

1 説明文・枝廣淳子『地元経済を創りなおす—分析・診断・対策』

問一

34行目「水は流れ出てしまい」を具体的に説明する問題です。4行目の形式段落を中心に地域＝バケツ、お金＝水であると判断します。すなわち、この傍線部は「地域からお金が出ていってしまう」と言い換えることができます。次の形式段落で、「地域からお金が出ていく」事例を具体的に挙げていますので、この形式段落の「地域外の業者による建設工事」「関連企業が地域にない企業誘致」「地元で雇用された従業員による地域外での買い物」「地域外で作られた土産物」のいずれかを利用します。

問二

136行目『「水を注ぎ入れるペースをアップする」』を具体的に説明する問題です。4行目の形式段落を中心に、地域＝バケツ、お金＝水であると判断します。すなわち、この傍線部は「お金を地域に投入する量を増やす」と言い換えることができます。4行目からの形式段落で「地域にお金を入れる」例を具体的に挙げていますので、この形式段落の「政府からの交付金や補助金」「企業誘致」「観光客の呼び込み」のいずれかを利用します。

問三

73行目「東京はともかく、他地域は困ってしまいます。」について、地域同士の理想的な関係を説明する問題です。75行目からの形式段落で具体例が展開され、それが90行目からの形式段落で一般化されています。したがって解答はこの形式段落に注目し、「地域同士が様々なものを相互に交換・交流する」という理想を読み取り、さらにはそのための前提条件である、「外部依存度を下げる」「自給自足率を上げる」ことを通して「自立した地域」になる、という要素を含めて説明する必要があります。

問四

83行目「(4)」に入れるのにふさわしい言葉を文中から抜き出す問題です。この箇所は75行目から始まる形式段落に含まれていて、「漏れバケツモデル」を提案している立場の主張が「〇〇を目指しているわけではない」という否定の文脈で書かれた部分です。同じ立場の主張は他に54行目から始まる形式段落にも書かれており、ここに同じく否定の文脈で「自給自足や孤立ではありません」と書かれているので、「孤立」が正解です。

問五

この文章を2つに分ける問題です。この文章は前半で「漏れバケツモデル」の説明、後半で自立をキーワードに「漏れバケツモデル」を通して目指す地域経済の在り方の説明が行われています。後半に話に移っているのは、51行目ですので、ここを解答します。

問六

空欄AからDに適切な語を入れる問題です。Aには言い換えのときに使う「つまり」、

□Bには逆の場合をつなげるイ「しかし」、□Cには同様の事例を続けるエ「やはり」、□Dには具体例を続けるア「たとえば」が入ります。

問七

漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。

問八

本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。66行目から70行目までの一文で「今の地域経済の穴」を「少しでもふさぐ努力をする」ことについて言及していて、これは選択肢ウと合致します。したがって正解はウとなります。他の選択肢を見ますと、アでは、後半の労働者の疲労について本文では述べられていません。イでは、下段43行目から始まる形式段落の内容と食い違っています。エは地元で工場を誘致したあとの失敗を「個性の薄らぎ」が原因としていますが、これは本文では述べられていません。

## 2 物語文・高橋弘希『送り火』

問一

6行目「初めてこの土地を訪れたとき、その場所はただの泥土だった。」について、このとき歩がどのような状況に置かれていたかを問う問題です。7行目から始まる描写と一致するイが正解です。アでは「原生林の神秘的な様子」を母が気になったことを引越しの根拠としていますが、これは本文で描かれていません。ウでは「初夏の水田」、エでは「一家でさまよっていた」がいずれも描写と合致しません。

問二

20行目「こんな山間の谷奥に、人が住んでいることが不思議だった。」を説明する問題です。この直後に「稲作ができる面積も少ないし、石炭や銅といった資源が採掘できるわけでもない。平野の広がる市街地のほうがよっぽど住みやすい。」とあり、ここに住み着いた最初の一家の気持ちを疑問に思っている様子が描かれているので、この箇所をまとめる必要があります。

問三

27行目「歩は何も答えられずに微笑を浮かべるばかりだった。」を説明する問題です。直前に「どの土地も“都”にならなかった母が言うので、」とあるので、直前に出てくる慣用句“住めば都”の意味を踏まえて、母の言動の矛盾に対する反応を説明する必要があります。

問四

61行目「母は困ったような微笑みを浮かべ、」の表情の理由を説明する問題です。ここは会話の途中部分なので、前後にどのような会話があるかを確認します。直前の「二人は幼馴染」、直後の「うちは転勤族」といった情報から、幼馴染であるふたりと幼馴染ではない息子という違いを意識する必要があります。また、これ踏まえて「困ったような」を「心

配」などの表現に置き換えてまとめることが必要です。なお、理由を問う問題ですので、文末は「～から。」とします。

問五

72行目「今度は確かな微笑を浮かべて、」という描写から読み取れる母の気持ちを問う問題です。ここは会話の途中部分なので、前後にどのような会話があるかを確認します。この直前に「それを聞くと母は、」とありますので、直前でそうめんを使った珍しい料理を褒められたことが「確かな微笑」の理由であると判断します。また直後では、母がそれを「郷土料理」と明らかにしているので、郷土料理を褒められたことが微笑につながったと分かります。このことに合致するアが正解です。イはこのことに一切言及されていません。ウは「自信の無かった」が47行目の、この料理を母はよく作っているという描写と食い違います。エは「郷土料理」でなく「そうめん」に話題が置き換わっています。

問六

慣用句の問題です。一がウ、二がエ、三がイ、四がア、五がオです。

問七

空欄A～Dに適切な語を入れる問題です。Aには前のこと理由となるア「だから」、Bには後の行動を示すエ「やがて」、Cには別の事柄を追加して述べるウ「また」、Dには逆接のイ「しかし」が入ります。

問八

本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。79行目からの段落を中心に、歩、稔、晃、の関係を読みとると、歩が完全には晃と稔に打ち解けていないことが分かります。したがって、正解はエ。アは「見下す」、イは「退屈だ」、ウは「常に警戒している」という表現がありますが、これは本文から読み取ることができません。

以上